

あまりにも早い桜の開花に地球の温暖化を実感します。
SDGsファッションの意識と行動を強くしたいものです。

スポーツは筋書きのないドラマ。WBCの筋書きにも書けないドラマに感動。
その感動を機に、サッカーファンが時々野球のニュースも観るようになりました。
工場のある岩手に行くといろんな処に大谷翔平君と佐々木朗希君の名前が貼ってあります。日本の誇りの前に、東北そして岩手の誇りなんですね。当然ですよ。

英語サイトがスタートし少しずつオーダーが入ってくるようになりました。
以前からの英国のロンドンをはじめ、アメリカのサンフランシスコから、マサチューセッツの知らない街から。確認で世界地図を開くとワクワクします。

【東日本大震災被災者支援の寄付】

3月31日、北上市の高橋市長に40万円をお届けしました。震災の翌年から毎年続けて今年で11回目になり寄付額は350万円を超えました。震災から10年以上が過ぎ少しずつ傷が癒えてきたようですがまだまだ苦しい生活を強いられている方も少なくないと聞きます。
岩手の企業市民として少しでも寄り添えれば幸いです。

当社サイトでカシミヤの葉を買って頂くことで寄付に協力して頂いたり、京都の恵文社さんをはじめ多くの方からの葉販売での寄付を頂きました。感謝申し上げます。



【UTOカシミヤ、岩手放送の放送内容】

ウェブサイトのTBSニュースの「カシミヤの聖地」でご覧いただけます。
<https://newsdtg.tbs.co.jp/articles/-/334310?display=1>

【理想のシルクに出会いました】

カシミヤ一筋30年のUTOカシミヤが、自信をもってお勧めできるシルク素材にとうとう出会いました。
シルクの良さをニットで表現できる、「何より着ている自分が一番幸せ」と感じる、とても気持ち良いシルクです。
UTOカシミヤの、「最高の素材」「確かなモノ作り」「あなたの為にお作りします」という「シルクのご馳走」をご提供します。



【カシミヤの早割】

UTOはカシミヤの会社。カシミヤは冬の素材。夏の間は何をやっているの？工場の職人は家庭の事情でのパートさん1人を除いて全員が正社員で30才前後、子供のいる社員もいます。
だから、「夏の間は暇だから出社しなくてもいいですよなんていう雇用調整は出来ません。社員が多くなってきたので頑張って仕事をするために、カシミヤの早割をすることにしました。」

【シルクの新しい歴史を始めよう】

シルクの歴史は4千年とも5千年とも言われます。絹のように「という表現があるように最高の衣類の代名詞でした。東西貿易の物流の道が絹で代表されるシルクロードと言われました。」

なめらか、すべすべ、光沢、高級、贅沢、権力、地位、富。そんな豪華なシルクの歴史はすべて織物の歴史でした。

その誰もが憧れたシルクがこの度、編み物のニットになりました。シルク4千年もの織物の歴史からニットの歴史が始まります。他人様や世間様の為に着るシルクではなく、自分の気持ちいいの為に着るシルクです。

UTO吉田の写真展「私たちの天浜線より」



【青山・表参道界限】

UTOはこんな街から発信しています

カシミヤおやじの

青山・表参道界限の三十年 (Ⅳ)

何時の事やら、骨董通りの電柱の地中化

骨董通りを歩く機会があれば通りに面したビルの上の階を注目して見て下さい。三階辺りから上の階が五メートルぐら以後に下がって下がった面は一応に揃っているのが解ると思います。これは、この通りを拡張する計画があり、実行されるときには下の出張りはずべて削られる約束になっているからです。と、二〇〇五年の通信で「南青山骨董通りの道路計画」と題して書きました。

当時の東京都建設局のサイトではこの拡張工事の目的は『電線類を地中化して安全な歩行空間を作るのと、骨董通りの渋滞を解消させる為』と言うことで、平成十四年～十九年に三十九億円をかけて建設するという風に書いてありました。

渋滞解消はどうか分かりませんが、電信柱が無くなって並木道になったら良い通になるでしょうね。どんな通になるか楽しみです。でもそれで四十億円もかかるというのもちよっと驚きです。また完成が平成十九年ということでしたが一向に工事が始まる気配がありません。

当社UTOの入るたつむら青山は十三階建て一九七二年築です。すぐ近くの小原流会館は一九七五年、お隣のニッカビルは一九八二年築です。この様子から推測すると、五〇年も前から計画されていたようで、私が来た三十年前には大きなビルはすでにセットバックしていました。また、骨董通り入り口の三棟のビルは最近出来ました。がすでにセットバックして建てられています。

表参道はもちろんみゆき通りまでは地中化しています。東京都の予算などの優先順位の問題かもしれないけど、何時になったら骨董通りの電柱の地中化は出来るんだろうと思います。

骨董通りは日本人はもちろん外国からの観光客も多く訪れています。東京の中でも外からのお客様が多い処なのでもう少し見栄えの良いよそ行きの景観であっても良いのではないかと思います。

写真を撮ると電柱だらけです。古き良き昭和をつたっている処ではなく新しいファッション通りが売りな処ですから、早く電柱の地中化をお願いしたいものです。



ふわふわウォッシュブルシルク100%
裏目ボートネックニット
1132-1427 ¥47,300(税込)

シルエットは着回ししやすいベーシック。
細い衿に袖・裾リブも細くして、女性らしいディティールになっております。いつもの毎日が心地よく豊かな気持ちで過ごせます。



ふわふわウォッシュブルシルク100%
ニットボロシャツ
1232-1410 ¥46,200(税込)
Vネックカーディガン
1232-2001 ¥57,200(税込)

吸湿、放湿に優れた点もシルクニット。湿度の高い夏場でも張り付きにくく、さらっと快適にお召し頂けるためスポーツシーンにもおすすめです。



透けるほど薄いカシミヤ100%
スロートイングマフラー
(160cm × 32cm)
11312-3363 ¥19,800(税込)

「単糸を編む」と端が斜めになり、シャープな印象のマフラーに。薄く柔らかいマフラーは首回りにボリュームが出過ぎず、ライトな巻き方を楽めます。

カシミヤとニットの話 * (七十五)

シルクの絹紡糸

シルクの良いところのニットが出来ました

けんぼうしは、絹紡糸と書きまます。
グーグルで絹紡糸と検索すると、屑繭、絹糸屑を紡いでつくった糸。あまり上等でない絹織物・縫い糸に使う。紡績絹糸。と出てきます。随分ひどい言われようです。

その昔、シルクが衣類の王様の時代。織物として(シルクニットはまだない時代)絹はまっすぐな糸で織られたすべすべの織物が最上とされた時代に、織物糸に適さない糸を他の用途に使う繊維を絹紡糸にしていろんなものを作っていました。

原料や素材はシルクに限らず用途によって違いが大きく分かれます。

最近のリンゴと言えばフジですね。蜜が種の周りに集まりとつても美味しく生食の評価が高いリンゴです。国光というリンゴがありました。生で食べると酸っぱく生食には人気がないけど、ジャムにするとその酸っぱさが甘さに変わって絶品のジャムができます。このように素材は用途によって評価が変わります。

UTOのシルクの絹紡糸は、酸っぱい国光でリンゴジャムを作っているのと同じで生の果実が甘い酸っぱいかはあまり関係ないのです。

絹紡糸は繭糸(千五百メートルもあります)を短く切ってワタにしてそのワタをウールや綿と同じように紡績することで空



気をたくさん含んだ糸を作ります。その糸は本来のシルクの良さをすべて持って、ふんわり感のある肌ざわり抜群の糸が出来たのです。

もちろん生糸を束ねて糸にしてニット

にすることも可能です。
以前、シルク糸老舗の長谷川商店さんのシルクの生糸でのニットを試したことがあります。しかし生糸で編んだ、光沢のあるすべすべのシルクニットにはあまり魅力を感じることが出来ませんでした。一年前、長谷川商店さんの展示会でこのシルク絹紡糸に出会いました。まさに長い間探していた糸です。

私たちは、軽く肌触りの柔らかいシックな色合いの絹紡糸ニットを探していたんです。この絹紡糸との出会いで秋冬はカシミヤで春夏はシルクと心が決まりました。

洗濯など水に弱いシルクにウォッシュャブル加工を施し、さらにふわふわの起毛加工を足して抜群の肌ざわりの究極のニットを完成させることが出来たと自負しています。

自分のために着るUTOのカシミヤ同様に自分の為に着るUTOシルクをどうぞご愛用ください。

ムツゴロウさん
安らかに
お休みください



一九七〇年代、二十代の旅行屋の頃、人間とライオンの絆の物語「野生のエルザ」の著者であるジョイ・アダムソンさんを日本に招聘したことがあります。動物保護のエルザ基金の普及のためということでもかなりの高齢でありながらも喜んで来日してくれました。彼女を招待したままでは良いのですが若者たちの貧乏会社にはお金がなくなるところに資金の協力をお願いに回りました。

無謀な若者たちの行動は全くの甘ちゃんで資金は殆ど集まりませんでした。そんな汲々の中唯一協力してくださったのが当時北海道の浜中で動物王国を主催されていたムツゴロウさんこと畑正憲さんでした。

事情を話すと、「うちにおいでよ！北海道で自然保護で頑張っている人たちを集めて待っているから」と誘ってくださいったんです。

せっかく日本に来てくれたアダムソンさんだから京都と奈良は見せてあげたいということで東京から関西を回って北海道の釧路に向かい釧路動物園の開館式に立ち会って浜中の動物王国まで。動物王国の入り口まで全員が馬に乗って迎えてくださいました。そして、北海道中で自然保護活動をされている人たちが十名以上を誘って頂き、牛を一頭さばいて大パーティをして頂きました。

「宇土さんはここまでアダムソンさんを連れて来てくれたんで、うちに来たからにはゆっくりしてね」と、気遣ってくださいたさつて畑家での二泊三日の休日頂き、「あんだ島原ね！うちは日田よ！」と九州弁でおばあちゃんと楽しい時間を過ごさせて頂きました。

その後ムツゴロウ王国でのアダムソンさんとムツゴロウさんとの動物対談をサンデー毎日が四週間にわたって連載してくれたのですが、その原稿料をすべて寄付してくださったのです。

「ボランティアでアダムソンさんを招聘してるんだから、その資金に使いなさい」と全額寄付してくださったのです。そのあとの九段会館での公演料も西武百貨店でのサイン会の出演料もすべて寄付してくださったのです。この寄付がどれほど有難かったことか。

「イヤー、若い人たちが頑張ってるんだから！」と照れながら何も見返りを求めずに応援してくださいったムツゴロウさんは、真に「カッコいい」方でした。計報に接し、あれから五十年近く経ってしまっただけで改めてムツゴロウさんの暖かさの想い起こされます。心よりの感謝と共にご冥福をお祈りします。

想いでのホテルを旅する(七十五)

元 旅行屋のお勧め キッツビュール・オーストリア

ホテル・フィンケンホフ

オーストリアのチロル州インスブルックから音楽の都ザルツブルグに向かう途中にキッツビュールという街があります。そこにこのフィンケンホフという小さなホテルがありました。ありましたと言っただけ、約半世紀前に訪れたホテルなのですが、今はネットで探しても出てきません。そんなに昔ですから廃業していても不思議ではありませんがとつても残念です。

チロル風の木造の三角屋根、ベランダには赤いゼラニウムが咲き誇って、ホテルの前には大人が二人でも抱えきれない立派なマロニエがありました。ホテルの裏からならかな緑の丘の牧場が続き、所々にモミの木が点在し、牛がのんびりと草を食むというため息が出るような光景は、子供のころからイメージしていた、いかにもチロルという光景が印象的でした。

ホテルの中はすべて白木造りで清潔感があり、ヨーロッパのホテルにはあまりないバスタブが付いていて、ふかふかの羽毛布団という、とっても素敵なホテルでした。

キッツビュールは冬のスキーリゾートとして有名で、トニー・ザイラーの故郷です。トニー・ザイラーという名前は若い人には馴染みがないかもしれませんが、一九五六年の冬季オリンピックのイタリアのホルティナ・ダンペッツオ大会でスキーマジック競技と言われる、滑降、回転、大回転で金メダルをとった三冠王で、そのあとの世界選手権でも優勝した選手です。

ホルティナと言えは三年後の二〇二六年、七〇年ぶりに冬季オリンピックミラノ&ホルティナ・ダンペッツオの開催地です。



私がキッツビュールを訪れた頃はホルティナ大会から20年も経っていたのにトニー・ザイラーは街の大ヒーローで、このフィンケンホフの女将さんが、あたかも自分の息子を自慢するかのようにな愛情いっぱい話をしてくれました。

トニー・ザイラーはその後映画にも出て、日本にも何度か来て、スキー競技やスキー場の設計など日本のウィンタースポーツやリゾートの発展に随分貢献してくれました。安比高原スキー場にはトニー・ザイラーの名前の付いたゲレンデもあるそうです。スキーシーズンになり、トニー・ザイラーやキッツビュールの名前を聞くとあの素敵なホテル・フィンケンホフと女将さんの笑顔を思い出します。